

日刊 動労千葉

80.11.24

No. 590

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）四五二二七二〇七

代支部

乗務員 運用合理化阻止総括と「1125」方針を確認

一月二一日、第一一回支部代表者会議は乗務員運用合理化阻止闘争の総括を行い、一・二五国鉄再建法案反対、木原線廃止反対ストライキを中心とする当面の取り組みについて確認決定した。

完全に粉碎された「一一・一 強行実施」 組織破壊策動

乗務員運用合理化阻止の闘いについて、第一一回支部代は、
第一に、合理化案を強要することによって、動労千葉の組織破壊を策動するという権力・当局・「本部」革マル反動分子一体となった政治的意図を完全に粉碎したこと。
第二に、線区別ダイヤ作成規程を確認し、今後想定される京葉線開通時等の運用合理化攻撃への歯止めと反撃の闘いの突破口を切り拓いたこと。
第三に、同時にこのことは、五六・一〇へ向けて乗務員運用合理化攻撃が全国化された段階での各地方の闘いを勝利するための指針ともなりうる突破口であり、「大胆な妥協」路線をもってセクト的利害のみを追求する「本部」反動分子が何等勝利の展望を切り拓けない中で、動労大改革―総連合へ向けて大きく一歩を切り拓いたこと。
第四に、定数一〇職三〇の獲得、外周区の乗務員に対する千葉ターミナル化、新採問題の前進、申一三号による各要求を大中に追い込んだこと。等を総括の視点として確認し、国労の動向、「一一・一強行実施」策動が粉碎されたことによる国鉄本社および「本部」反動分子の介入策動の強まり等々の状況から、これ以上事態を引きのばすことは前進にならないという判断を理解するとともに、さらに細部の詰め交渉を追い込み闘いを集約することを確認した。

合理化の水先案内人 Ⅱ「本部」反動分子

この動労千葉の圧倒的闘いの前に、「本部」反動分子は三信ビルに閉じこもり、「一一・一強行実施」策動粉碎という事態にいたたまれなくなるや「提案通り実施してくれ」と当局に哀願し、本社に泣きついて千葉局に強行を迫るなど、およそ労働組合ならびにできるはずのないことを平然とや合理化の水先案内人としての実態を全組合員の前にさらし、動労千葉と国労の全組合員の軽べつと怒りの対象として、各支部代表から激しく糾弾されたのである。

木原線廃止を許すな！

支部代表者会議は、続いて第九三回国会の会期延長に伴って「再建法」の成立の可否が、一月二五日〜二七日を焦点に動き出したことに踏まえ、一・二五国鉄再建法案反対・木原線廃止反対の闘いについて、次の通り確認した。

- (1) 一月二五日 一二時〜一四時の時限ストを実施する。
- (2) 対象 木原線乗務員
- (3) スト時間帯に木原線を走る列車で一二時前に始発駅を発車する列車は原則として、始発時よりの指名ストとする。
- (4) その他戦術の細部については本部と関係支部で協議する。
- (5) 一月二五日 〇時よりスト終了時まで、木原線、外房線の全乗務員を対象とする減産闘争（B行動）を実施する。
- (6) 一月二五日 〇時（始業時）よりスト終了時まで、前項に該当する以外の全組合員による減産闘争（A行動）を実施する。
- (7) 「一一・二五国鉄再建法案反対、木原線を守る千葉集會」に次の通り参加する。
 - ① 日時 一九八〇年一月二五日 一二時三〇分
 - ② 場所 第一会場 大原駅前
第二会場 大多喜駅前
 - ③ 動員割当 第一会場 勝浦二〇、千葉転十 幕張 五、津田沼五 第二会場 勝浦十、木更津 五 蘇我五
- (8) 政府・当局が「再建法案」と年末手当その他の賃金支払いを関連させた攻撃を行ってきた場合は、直ちに反撃の闘いに決起できる準備体制を確立する。

第四回定期大会に結集しよう！

支部代表者会議は以上の確認に踏まえ、一月二六〜二八日に潮来で開催される第四回定期大会の成功へ向けて全力で取り組むことを決意して終了した。
第四回大会へ全力で結集し、「八一・三」をはじめとする闘いへ万全の闘争体制を確立しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！